



<1>

[写真1・2]一見するとクリニックとは思えないデザインの空間。従来のクリニックでは白を基調とした空間が多く、緊張感や冷たい雰囲気を感じてしまいがちですが、色彩や形状を工夫することで温かみを感じ、リラックスして診療を受けられる場にすることが可能です。[写真3・4]鮮やかなオレンジ色の壁紙が印象的なオフィスのエントランスホール。壁面の1面だけ色彩を変えることで、その面に視線が集まり、空間の『氣』を高めることができます。エントランスホールの黄色とオレンジの色彩は「前向きな気持ち」や「活力向上」、会議室の水色とブラウンの色彩は「脳の沈静化」と「集中力向上」の働きが期待できる色彩となっています。

[写真5・6]スーパーマーケットでは売り場ごとに色彩に変化をつけることで、高揚感や期待感を演出できます。加えて照明の光で陰影をつけることで色の濃淡が生じ、『氣』の流れを活発にすることが可能となります。



<2>



<3>



<5>



<4>



<6>

Feng-Shui Gallery

special edition vol.71

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『空間ごとに考える色彩の働き オフィス・店舗編』



[大写真]柔らかい印象のベージュの壁紙と、同系色のカーペット床で構成されたクリニックのエントランススペース。ベージュの色彩と、柔らかいカーペットの質感が、訪れた患者さんをリラックスさせてくれる空間となっています。

その場に訪れる人の目的によって
用いる色彩は異なる

色彩がもたらす働きによって、空間の色彩選定を行うことが大切

住宅の居室と同じように、オフィスや店舗の各空間においても、それぞれ使用する目的は異なります。オフィスであれば、集中して業務をこなす空間と活発に意見を交わす空間とでは目的が異なる為使用する色彩を変えることで、その場に適した空間をつくることができます。